

石中だより



花巻市立石鳥谷中学校

校報NO5

令和5年5月11日発行

文責 校長 千葉龍太郎

Advance~さらなる高みへ、共に~前期生徒総会~

「Advance(前進)」のスローガンは昨年度後期からの継続。更にフラッシュアップ!!

5月10日(水)の3・4時間目。前期生徒総会が開催され、執行部・各委員会・部長会・応援団・各学年生徒会から本年度の活動計画が提案され、可決されました。前期の生徒会活動スローガンは「Advance~さらなる高みへ、共に~」です。「Advance」には「前進する」という意味があります。令和4年度の後期生徒会では、この「Advance」をスローガンに掲げ、持続可能な未来の実現へ向けて、石中が一体となって前進していきたいという願いを込めて、様々な活動を行ってきました。令和5年度前期もこのスローガンを引き継ぎ、SDG'sを活動に取り入れ、持続可能な石中生徒会にしていくとのことです。スローガン達成に向けて、三つの重点を上げています。①自律した行動(自分で判断して行動する)、②心に響く挨拶(明るくさわやかな挨拶の輪を広げよう)、③積極的なSDG's(福祉や環境問題に関心を持ち、できることからSDG'sの活動を増やしていこう)です。この重点に向けて、執行部・応援団・各委員会は取り組みをしていくこととなります。石中生徒会の活動、楽しみです。 ※各専門委員長と学年委員長は後日紹介します。

【前期生徒会執行部と各担当】リーダーの皆さん。石中生徒会よろしくお願ひします。

会長	本間陽光(3-2)	挨拶・学年執行部担当
副会長	古内陽茉莉(3-2)	学年執行部担当
副会長	継枝利優(2-2)	図書委員会担当
常任議長	佐藤桜咲(3-3)	生活安全委員会担当
書記長	佐藤朱莉(3-2)	福祉・SDGs担当
書記次長	藤原賢真(2-3)	学習委員会・部長会担当
執行委員	佐藤光(3-1)	給食委員会担当
執行委員	吉田颯真(3-2)	広報委員会担当
執行委員	玉山暖(3-4)	保健美化委員会担当
執行委員	中村亮太(3-4)	挨拶・保健美化委員会担当
執行委員	高橋知里(2-2)	生活安全委員会担当
応援団長	小原田陽悠(3-4)	応援(挨拶)担当



【全校朝会より表彰生徒】

花巻市民スポーツ大会	バスケットボール競技	中学校男子	第1位	石鳥谷中学校
	柔道 団体戦	中学生男子	第3位	石鳥谷中学校
	柔道 団体戦	中学生女子	第3位	石鳥谷中学校
	柔道 個人戦	中学生3年女子の部	第1位	菅野絢未

第52回岩手県少年野球大会兼第40回全日本少年軟式野球大会岩手県予選花巻地区大会 第3位 石鳥谷中学校

【校長室より】石中生へ。体育祭の前に読んでほしいと思います。昔、フジテレビで放送されたお話。

その話は、小田原市の中学校の運動会のクラス対抗「大縄飛び」で、2年1組は**最下位だったにも関わらず**、みんなが飛び上がって大喜びしている映像から始まりました。1組には勉強も運動もちょっと苦手な、軽いハンディを持つ少年がいました。キャンプで目的地までの長い距離を歩いていて、少年は徐々に遅れてしまい、それでも必死にみんなの後を追っていると、一人の生徒がそれに気づいて、みんなで止まって待っていて、励ましながら一緒に歩き通したなどというように、いつも支え合ってきた仲のよいクラスだったそうです。ところが運動会で、6分間で何回跳べるかを競うクラス対抗大縄飛びをやることになって、仲のよいクラスに亀裂ができたというのです。何回も練習したけれど、少年安部ちゃんの足が縄に引っかかって、どうしても跳ぶことができるようにならなかったのです。クラスみんなの中には、優勝したいという気持ちと、一緒に跳びたいという気持ちが葛藤していました。一緒に跳ぶのが平等なのか、それとも外すのが思いやりなのか、クラス全員が悩みます。少年は「応援係」というのが、2年1組が少年の承諾も得た上で出した結論でした。それから1組の大縄跳びは練習を重ね、どんどん記録を伸ばすことになり、予行練習では一位になりました。**そして迎えた運動会の前日、一人の生徒が先生に気持ちを伝えます。「大縄跳びで安部ちゃんを外して跳ぶのは…、やっぱりイヤです」「勝ちたいという気持ちがあって練習してきたけど、やっぱり心のどこかで、一人外して跳んでいた自分に葛藤みたいなひっかりみたいなものがある…」**と。先生はクラスの雰囲気を感じていて、そういう発言を待っていた感じで、「それでは話し合いをしよう」と、放課後にクラス全員での話し合いがもうけられました。一人一人が意見をぶつけ合い、「何でいまごろ言うんだよ！」と体育祭を明日に控えて怒りをあらわにする生徒もいました。一時間話し合っても、「勝ちたいから安部ちゃんは外してやりたい」「一人も外さないでみんなで跳びたい」との意見はまとまらず、先生が採決をとっても半々。そのとき一人の生徒が立ち上がり、「俺たちが決めることじゃなくて、安部ちゃんが決めることだよ」と言ったのです。いつも周りのみんなに気をつかい、自分の意見を言わない少年。応援係になることが決まるときにも、何も言わなかったのです。知らず知らずのうちに置き去りにしてしまった少年の気持ち。みんなが少年の言葉を待ちました。「…跳びたい」少年が心の底から絞り出した言葉。それは少年が初めて自分の気持ちを表現した瞬間でした。その言葉でみんなが気づかされました。勝ちたいという気持ちが先走り、忘れかけていた何か…。「安部ちゃんが跳びたいんだからみんなで跳びたい」「勝ち負けなんて関係ないから、一緒に跳べればいい」「予行練習で一位だったんだからもうそれでいい。本番は安部ちゃんと一緒に跳びたい」二つに別れていたみんなの思いは一つになっていました。「放課後、みんな残って、安部ちゃんのことを話しました。金子さん、鈴木さんの泣き顔、まだ頭の中から離れない。あっそうそう、先生の泣き顔おかしかったな。先生必死になって泣くのをやめようとして。ああいう時は泣いていいのに」「私、このことは忘れないと思うな。みんなの優しい気持ち、すっごくよくわかりました。2年1組はとってもすてきなクラスだと思う。」「一回も跳べなくていい。みんなで楽しみながら大縄しよう。」と生徒がノートに書き残していました。そして迎えた体育祭当日。午後にある大縄飛びの最後の練習を、昼休みにみんなでしました。みんなのかけ声でまわした縄は、やはり少年の足元で止まります。でもそのときには、「安部ちゃんを応援する気持ちしかなかったです。跳べないことで、やっぱりピリかとかではなくて、全然そんなのを意識しないで、安部ちゃん頑張れって…」と、**みんなで一緒に跳ぶことを選んだ2年1組の生徒たち**。そして一度も跳ぶことができないで迎えた大縄飛びの本番。クラスの親が偶然、撮影してあったビデオ映像に、「クラスみんなで見つけた勇気が映っていました」と、そのときのようすが映像で流れました。その映像には、一人の生徒が安部ちゃんを抱きかかえるようにして、跳んでいるようすが映っていました。それでも一回目、二回目…と安部ちゃんの足元で縄が止まります。ところが何回目に跳べたんです。少年と一人の生徒と一緒に跳べて、みんな一緒に跳べたんです。跳べたとき、競技中であることも忘れて、生徒全員が飛び上がって喜び合いました。1、2、3、4、5…連続して跳べていました。そして、その続きに映った映像には、誰の支えもなく、少年自らの力で跳び始めた姿が映し出されました。みんなで一緒に連続して跳べていました。みんな泣きながら跳んでいました。先生は後ろ姿しか映っていませんでしたが、きっと先生も泣いていたでしょう。「五位、2年1組、71回」とアナウンスが流れたら、みんな飛び上がって喜んでいました。安部ちゃんは、みんなと一緒に71回も跳べたんですね。みんな一緒に跳べたんですね。「最高のびりっけつ」！

☆体育祭や合唱コンクールの目的とは何なのでしょうか。「何のためにやるのでしょうか」そして、組団は何を目標にして競技に臨むべきでしょうか。このお話からそんなことを考えて。練習・本番がんばってください。